



平成 19 年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 ネ ポ ン 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 福 田 晴 久
兼 代 表 執 行 役 員
(コード番号 7985 東証第 2 部)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 兼 常 務 執 行 役 員 内 山 芳 男
管 理 本 部 長
(TEL. 03-3409-3159)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 3 月期中間期において特別損失を計上いたしますのでお知らせいたします。
また、平成 19 年 8 月 9 日の平成 20 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況（非連結）時にて公表しました平成 20 年 3 月期中間期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）の業績予想および平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしますので併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

(1) 過年度損益修正の計上

販売促進の一環として実施しておりますセールスモニター品在庫の一部について当中間期より一括費用処理することとし、この影響により過年度分 13 百万円分を計上し、また、保険積立金の残高相違の発生 2 百万円、敷金の過年度未償却額 1 百万円を一括して当中間期に特別損失に計上することといたしました。

特別損失計上額 前期損益修正 16 百万円

(2) 役員退職慰労引当金の計上

当社では、従来役員退職慰労金は支出時の費用として処理しておりましたが、改正後の「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」（日本公認会計士協会・保証実務委員会報告第 42 号）を適用し、平成 20 年 3 月期より役員退職慰労金内規に基づく期末要支給額を役員退職慰労引当金として計上することといたしました。

特別損失計上額 役員退職慰労引当金繰入 78 百万円

なお、当中間期発生額は販売費及び一般管理費に 3 百万円計上しております。

2. 平成20年3月中間期及び平成20年3月期の業績予想の修正

(1) 平成20年3月中間期の業績予想値の修正（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,800	△130	△140	△240	△24 02
今回修正予想(B)	3,600	△105	△125	△430	△43 03
増減額(B-A)	△200	25	15	△190	-
増減率(%)	△5.3	-	-	-	-
前中間期実績(平成19年3月期)	4,021	△197	△229	△301	△30 19

(2) 平成20年3月期の業績予想値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,500	150	100	25	2 50
今回修正予想(B)	7,900	100	40	△190	△19 02
増減額(B-A)	△600	△50	△60	△215	-
増減率(%)	△7.1	△33.3	△60.0	-	-
前期実績(平成19年3月期)	8,235	△341	△400	△40	△4 02

(3) 修正の理由

中間期においては、主力の施設園芸用温風暖房機が、農業界を取り巻く厳しい環境に晒され伸び悩み売上高は減少しましたが、施設園芸用温風暖房機の値上、経営再建策による合理化による製造コストの減少と販売管理費の減少により営業損失、経常損失とも、損失額が縮小いたしました。しかしながら、前期損益修正及び役員退職慰労引当金の特別損失計上と繰延税金資産の回収長期化による取崩しに伴う法人税等調整額9千5百万円が当初見込みより増加したため、純損失は予想を大幅に上回る見込みとなります。

また通期においては、引き続き経営合理化を継続いたしますが、この間の原油価格の高騰は、施設園芸農家の設備投資を更に冷え込ませる結果が予想され、当初予定の売上高の確保は難しくなるとともに、それに伴う売上総利益の減少と新規事業への開発投資の拡充により、営業利益、経常利益とも減少し、中間期に実施した役員退職慰労引当金の特別損失計上と、期末における税効果会計の適用による繰延税金資産の計上を見送ることから、当期純利益は25百万円の予定から、1億9千万円の純損失となる見込みであります。

以 上